

令和3年9月12日

勉強会参加のみなさまへ

NPO法人常磐炭田史研究会

会長 野木和夫

勉強会（日程再々変更）のご案内

東京パラリンピックも無事終了しましたが、相変わらず日本列島のコロナ禍の先行きは不透明であります。そんな中、季節は確実に秋に向かって今日この頃ですが、みなさまには如何お過ごしでしょうか。

早速ですが、いわき市のまん延防止等重点措置は9月30日までの延期が決まり、会場の「いわき市石炭・化石館」も同日まで休館になりましたので

常磐炭礦(株)磐城砒業所閉山50年の節目の勉強会のうち、

9月25日（土） 講師 吉田静江氏 を →10月9日（土）に延期致します。

これ以外の勉強会日程は先日お送りした予定通りです。（別紙日程表でご確認下さい。）

ご出席のみなさまも必ずマスク着用、出入りのアルコール消毒、検温、間隔を空けた座席等をよろしく願いいたします。そして熱が出たり体調不良時は無理しないで欠席して下さい。コロナ・ワクチン接種の方もどうぞよろしく願いいたします。

感染予防のため飲み物は出しませんので各自ご準備願います。

みなさまにはコロナ禍の中、くれぐれもご自愛ください。

以上

再々変更後勉強会日程（下線が9月から変更）

場所 いわき市石炭・化石館「ほるる」コミュニティ・ホール

時間 13時00分（受付12時30分から）～15時00分

司会進行 野木和夫

① 10月9日（土）「閉山と湯本二小の子供たち」講師 会員 吉田静江+ゲスト

講師は大閉山の年、湯本二小の教師をしており、閉山で故郷を離れる親と一緒に新天地に行く多くの子供たちの転校を見守ってきました。炭鉱のど真ん中にある湯本二小は閉山の時どんな様子だったのか、吉田先生とお招きしたゲストに思い出話をさせていただきます。

② 10月16日(土)「大閉山といわき地域の対応」 講師 会員 小宅幸一

➡テーマ変更「エネルギー変革と常磐炭田の疲弊」

～斜陽期の初期における産業崩壊と対応策

講師はいわき市役所OB。豊富な知識や写真を駆使してテーマに迫る手法は他の追随を許しません。この大閉山問題にいわき市など関係機関はどう対策をとったのか、それがどう復興に結びついたのか、この大きいテーマで持ち時間の2時間で終われるのか、その点だけが心配です。

③ 10月23日(土)「OBが語る常磐炭田の閉山事情」 講師 会員 野木和夫

講師は常磐炭礦(株)に入社時、実習で2か月坑内作業も経験。常磐炭礦(株)OBとの交流も多く、閉山経験者から直接話を聞いたり、資料を調査したりして今回のテーマとしました。常磐炭田全般の閉山事情にも触れるいわば「閉山とは・・・の入門編」です。

④ 11月20日(土)「今だから話せる閉山闘争」 講師 OB 安斎哲男

安斎哲男氏は常磐炭礦労働組合の役員として労働者の権利と生活を守る活動を続けてまいりました。そして50年前のあの閉山反対闘争を実際戦った、今では数少ない証言者の一人です。組合から見た閉山とはどんなものだったのか・・・話していただきます。

⑤ 1月22日(土)「脱炭素社会と石炭産業のこれから」講師 会員 渡邊英樹

明治以降の日本近代化や戦後復興に尽くした石炭ですが、最近は何かと風当たりが強くなっております。講師は常磐興産(株)で長年石炭営業を担当、現在は常磐港運(ときわこううん)(株)の社長として活躍中。石炭産業の今とこれからの分かりやすく解説していただきます。

⑥ 3月19日(土)「旧青葉の住人よりの書簡」 講師 会員 菅波 晋

常磐青葉地区は常磐炭礦(株)の炭住があり、「旧青葉の住人」と称する匿名の方から講師宛てに30通を越す書簡が届き、内容を見ると戦前戦後の炭鉱の話や珍しい写真もあり、炭鉱と湯本町の関連を含め、勉強になるので今回とり上げました。

事前のお問い合わせは 会長 野木和夫 090-7322-9818

事務局長 馬目太一 090-8502-4278
